

令和4年度 秋田県立秋田北高等学校 学校評価

		分掌名(2年部)	記載者 斎藤 司
重点目標	<p>3年間の目標 : 「主体性」と「考動力」を育成する。</p> <p>2年次の目標 : 自己の進路目標をより具体的に設定し、主体的に課題を見つけ、自ら解決に向かって計画的に考え行動できる姿勢を育む。</p>		
具体的な計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 自己管理を徹底し、規則正しい生活習慣と学習習慣の定着を図る。 2 主体的で共感力ある生徒を育成するために、クラスや一人ひとりが考えて選択したり、生徒が互いに協力したりできる場を設定する。 3 学力の向上に向けて自走できる生徒の育成に向け、授業や補習、特別講座、ICTを活用した模試など、工夫を凝らした学習指導を実践する。 4 進路学習を支援し、必要な学問分野の教養を身に付けさせるために、LHRや総探の時間を有効的に活用する。 5 生徒・保護者に対し適切な時期に適切な情報を提供して、キャリア教育を意識した進路の具体化に寄与するため、ICTを積極的に活用し、オンライン講演と生徒面談などを通しコミュニケーションの推進を図る。 6 規律や自律、仲間との協働の重要性を理解させるために、修学旅行などの行事や授業での学び合いを活用する。 		
具体的な取組状況	前期評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上については、難関大対策講座を企画し、上位層の強化を行っている。また、駿台tama模試を年6回、自宅でタブレットを使い全員受験することで、基礎学力の定着を意識付けさせるようにした。他にも、進路通信を通じて家庭に最新の受験情報を発信し、学年PTAでは進路講演会を行った。 ・精神的な面でサポートが必要な生徒の状況については、常に学年部職員間で情報を共有できるように心掛けた。外部からはスクールソーシャルワーカーの協力を得て個別指導を充実させることができた。学年PTAでは、スクールソーシャルワーカーを招いて教育相談講演会を行った。 ・後期は修学旅行を成功させ、来年度の進路目標に向かって進むことができるような雰囲気づくりに取り組みたい。 	総合評価
	後期評価	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究では、生徒はテーマの設定について自ら考え個性的な研究に取り組んだ。ゼミ内発表に向けて、大学生からの助言をもとに改良し、プレゼンすることができた。 ・修学旅行に向けた自主研修の計画書作成や、現地での班別行動により主体性の成長を育むことができた。 ・支援が必要な生徒へのサポートについては、スクールソーシャルワーカーの協力もあり、適切な対応を行うことができた。サポートが必要な生徒が予想よりも多かったため、現状を職員会議で情報共有し、学校全体の協力を得ることができた。 ・学力向上については、難関大対策講座が機能し、上位層の育成を行うことができた。次は中位層や下位層について進路指導を強化し、次年度に向けて取り組んでいく。 	A
今年度の課題		<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究に使える時間が少なかった。特に秋は課題研究発表会前に修学旅行があるため、兼ね合いが難しくなった。 ・学力中位層がやや少なく、難関大を目指す上位層と下位層の差が見られた。 ・精神面での問題を抱える生徒が多く、個別対応を重視したため、担任の負担が増加した。 	今後の改善策
		<ul style="list-style-type: none"> ・進路目標の明確化と、入試に向けた受験体制の構築を目指す。 ・進路講演や模試を利用し、受験生としての雰囲気作りを行い、現役合格を目指させる。 ・難関大補習を引き継ぎながらも、学力下位層から中間層への底上げを図る。 ・精神面で問題を抱える生徒については、スクールソーシャルワーカーから引き続き協力してもらう。 	

|

|